

東京・葛西城址かさいじょう

- 1 所在地 東京都葛飾区青戸七丁目
- 2 調査期間 一 一九八六年(昭61)五月～一九八七年四月、
二 一九八七年五月～一〇月

- 3 発掘機関 葛西城址調査会

- 4 調査担当者 谷口 榮

- 5 遺跡の種類 城館跡

- 6 遺跡の年代 中世～近世

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(東京東北部)

葛西城址は、中川右岸の自然堤防上に立地する中世の城館跡である。近世には徳川將軍家の

御殿(青戸御殿)として使用されている。

調査は下水道の敷設に伴って実施された。葛西城址の中心を南北に貫く環状七号線を挟んで、東側が下水道東地区、西側が下水道西地区である。トレンチ状の

調査ではあったが、堀や溝などの葛西城関連の遺構が確認され、城の縄張りを把握する上で重要なデータが得られた。

下水道西地区では、U区からW区にかけての五号遺構から木簡一点が出土した。五号遺構は、主郭北側の郭の西側に位置する堀である。遺構の時期はおよそ一六世紀と思われる。

下水道東地区では、M区二八号遺構から将棋の駒(二①)、I区三二号遺構から卒塔婆(二②)と板材(二③)が出土した。葛西城の主郭は周囲が堀で囲まれており、M区二八号遺構はその東側に位置する堀である。この堀は一六世紀に整備され、一七世紀の青戸御殿の時期まで機能していたとみられる。I区三二号遺構は、主郭東北側に所在する幅四m程度と推測される溝である。出土遺物は、中世と近世のものが混在しており、一六世紀の葛西城の時代に掘られたものが、一七世紀以降も溝として使われていた可能性がある。

8 木簡の釈文・内容

一 下水道西地区

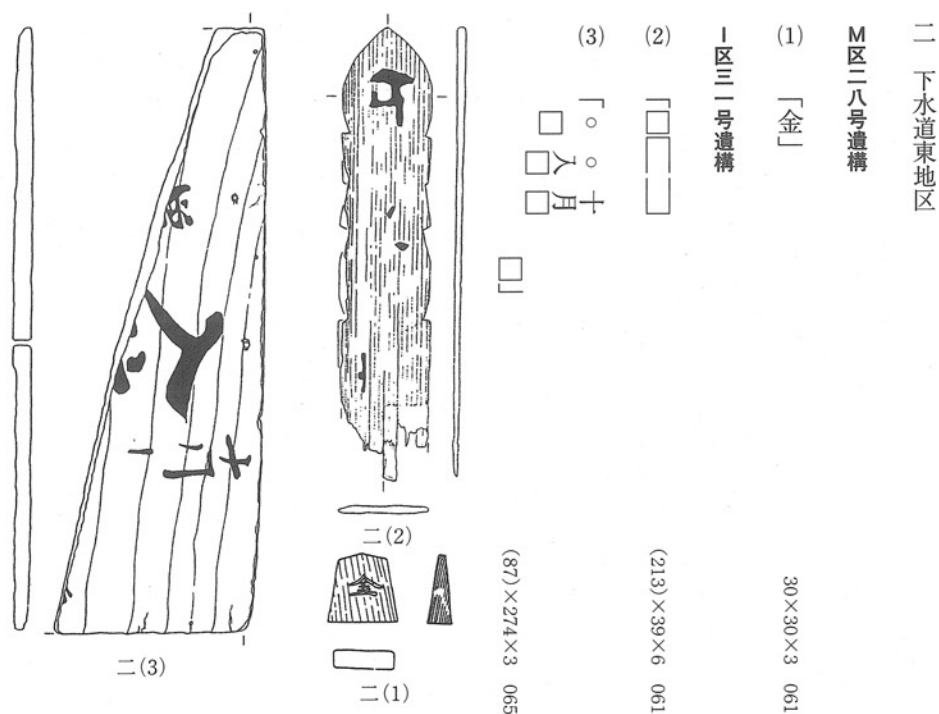
(1) 「▽□大□」

三文字が確認できるが、判読できるのは二文字目のみである。



一(1)

83×26×7 032



(1)は将棋の駒、(2)は卒塔婆である。(3)は用途不明の板材で、釘孔を有する。

9
関係文献

葛飾区遺跡調査会『葛西城Ⅻ（第二分冊）』（葛飾区遺跡調査会調査報告五、一九九二年）

(永越信吾 〔葛飾区教育委員会〕)

『木簡研究』のデータの

奈良文化財研究所「木簡データベース」への提供

木簡学会では、会誌『木簡研究』に掲載した全国出土の木簡のデータを、各調査機関のご理解とご協力を得て、奈良文化財研究所の「木簡データベース」に提供して広く一般に公開している。「木簡データベース」が日本の木簡の総合的なデータベースとして機能し得るのは、この木簡学会の情報提供によるところが大きい。まさに会則にうたわれた本会の設置目的に適合する事業といえよう。なお、情報提供は「木簡データベース」のフォーマットに載る部分のみであり、また写真や実測図の提供は現在のところ行なっていない。

「木簡データベース」の更新は、一・四・七・一〇月の最終月曜を定例としているが、『木簡研究』最終号のデータの登載は、概ね刊行翌年の一〇月の更新時を目的としている。